

武人・武官と文学

明代後期、出版量の大幅な増加とともに、不特定多数の読者を対象として大量の白話文学作品が刊行され、新たな読者が出現する。この新しい読者は、しばしば「庶民」と呼ばれてきたが、その実態は明らかではなかった。真の意味での庶民には識字能力を持つ者は少なかつたはずであり、書物を購入するには一定の経済力が要求される。それらの条件を満たしうる存在は何か。その重要な一部分として浮上するのが武官・武人である。

本シンポジウムは、文学において従来重視されてこなかった武人・武官という視点から中国文学をとらえなおすことを試みるものである。

小松 謙
岡崎 由美
松浦 智子
井口 千雪